

弥生人、水資源を活用する！

①第1武道場その他工事に伴う発掘調査

調査の概要

○調査地：吉田キャンパス陸上競技場東側体育器具庫跡地

○調査面積：692 m²

○調査期間：平成25年10月10日～12月25日

調査の経緯

吉田キャンパスにて、第1武道場耐震改修その他工事に伴い陸上競技場東側に位置する2棟の体育器具庫が解体され、新たに体育器具庫が設置されることになりました。**周辺地では弥生時代から古墳時代初頭にかけての遺構・遺物が密に分布している**（下パネル参照）ことが確認されています。

現在遺構が地下に埋め戻し保存されている「遺跡保存公園」では、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が21棟、共用棟B新営工事に伴う発掘調査では同じく弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が4棟、さらにラグビー場防球ネット新営工事に伴う発掘調査では弥生時代終末期から古墳時代初頭の竪穴住居跡が1棟、弥生時代中期から後期にかけての大溝1条が検出されています。

また開発予定地の東に隣接する第2体育館新営に伴う発掘調査では、弥生時代の大溝3条が検出されており、その走向から延長部が開発予定地に及ぶ可能性は極めて高いと判断されたため、建物建設範囲全体を対象に発掘調査を実施することになりました。

調査の成果

調査区の中央部から北西半部において、自然河川1条と溝6条、土壙3基が検出されました。**自然河川**は調査区を東から西に横切るように流れており、左岸（南側）で**溝3**が南方向に分岐しています。自然河川の南西隣には、北東から南西に走る**溝2a・2b**が存在します。遺構に埋積した土の状況から、両者は同時期に機能していたものと考えられます。さらに溝2aの埋土を切り込み**溝1b**が、溝1bの埋土を切り込み**溝1a**が築かれています。調査区内では確認できませんでしたが、溝1・2は自然河川の上流から分岐させた**用水路**と推定されます。溝3は自然河川がある程度埋没した状況で築かれており、溝2bの埋土を切り込みます。**溝4**は自然河川が上部まで埋没した後に築かれています。

自然河川と溝の所属時期に関しては、自然河川最下層から弥生時代前期の土器が出土していることから**弥生時代前期**には自然河川と溝2が機能していたものと推定されます。その後溝3と溝1が出現すると考えられますが、良好な資料に恵まれないため、出現時期を限定できません。ただし、溝1から溝4までの間、約30mの範囲に**古墳時代初頭**の遺物を含む最終埋土が堆積していることから、古墳時代前期には河川と溝が人為的に管理されなくなり、完全に埋没したものと推察されます。

この時期は、周辺地に形成された集落が廃絶する時期でもあります。人々が土地を離れると同時に、用水路下流に存在したと見られる耕作地もその役割を終えたのでしょう。